

日本地衣学会

No.14

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	47
	第2回メール評議員会議事録 / 議長.....	47
	第3回メール評議員会議事録 / 庶務幹事.....	47
	青空地衣教室のご紹介 / 地域活性化委員長.....	48
	会員通信.....	48
	森を見て地球を考える - カナダ プリティッシュコロンビア大学研修記 / 南佳典.....	49
	企画展「驚異の地衣類」その3. 地衣成分 - 地衣類が作る化学物質 / 原田 浩.....	50

会務報告 Reports of the JSL Activities

第 2 回メール評議員会議事録

2002年12月17日から2003年1月5日までの間、評議員8名（議長を除く）全員の参加をもって第2回メール評議員会が開催され、下記の案件2件について評議しました。

記

案件 - 1 新入会員（16名）の入会

国内一般会員7名、国外一般会員9名、計16名、*賛成5名（棄権3名）で承認されました。

案件 - 2 Lumbsch 氏総説を招待論文として抜刷無償提供する件（原田編集長からの提案）

内容;学会設立記念シンポジウム演者としてドイツより招聘した Lumbsch 氏が、講演要旨を Lichenology

に総説として投稿され、このたび刷り上り7ページで印刷となります。この抜刷代金4200円（税込み）を学会で負担することを提案します。招待論文の待遇です。なお1巻の印刷費は1号は約14万円、2号は約18万円（未確定。もう少し高くなる可能性あり）で計32万円となり、ほぼ予算どおりです。しかし、超過ページによるページチャージの収入が1万2千円あるので予算33万2千円、Lumbsch 氏の抜刷代を含めても何とか予算内に収まる予定です。

*賛成6名（棄権2名）で承認されました。

（木下靖浩:議長）

第 3 回メール評議員会議事録

2003年2月18日から2003年3月10日までの間、評議員6名（議長を除く）の参加をもって第3回メー

ル評議員会が開催され、2003年度事業計画および2002年度決算報告、2003年度予算計画（下記）につ

いて評議し、全員で承認した。

記

日本地衣学会 2003 年度事業計画

【基本目標】

学会としての体制確立

【行動目標】

1. 細則・内規の追加整備（英文規約，役員選挙，大会運営，総会運営，編集委員会運営，観察会運営など）
2. 主要業務推進体制の確立（大会・シンポジウム，観察会，地域観察会，学会誌，HP）
3. 目標会員数
2002年12月31日110名（一般76，学生12，海外一般9，海外学生0，団体3，名誉10）
2003年2月5日現在114名（一般80，学生11，海外一般10，海外学生0，団体3，名誉10）
2003年7月31日目標128名（一般82，学生16，海外一般11，海外学生2，団体3，名誉14）
2003年12月31日目標130名（一般82，学生16，海外一般12，海外学生2，団体3，名誉14）

【事業計画】

1. 主催大会，シンポジウム，観察会等
日本地衣学会第2回大会・シンポジウム（京都大農学部，8/2-3，委員長：宮川恒）および青空地衣教室（京都高雄，8/4）
第2回観察会（秋田県森吉山，8/30-31，世話人：山本好和）およびワークショップ（秋田県大，9/1-3）

植物学会大会関連集会（札幌，9/26，世話人：岡本達哉）および青空地衣教室（支笏湖，9/29）

2. 印刷物発行等広報活動（編集委員会）
学会誌「Lichenology」2巻1号発行（5月下旬），2巻2号発行（11月下旬）
日本地衣学会 Newsletter 発行（5月，11月，他随時）
大会予告：生物科学ニュース，農芸化学会誌，薬学会誌，菌学会誌など
IAL News Letter 投稿（大会予告，大会報告）
海外（アジア）研究者向け学会宣伝メール（2月）
3. インターネット関連（HP運営委員会制作・運営）
新サーバー（秋田県立大学次世代生物生産システム学講座内）への移行
4. 地域事業（地域活性化委員会主催行事）
青空地衣教室：地衣類観察会協力
北海道地区 9/29（月）支笏湖，世話人：山本好和【植物学会大会関連】
東北地区 5/17（土）田沢湖，世話人：原光二郎，小峰正史
関東地区 2/2（日）箱根，6月箱根，秋，世話人：木下靖浩，安斉唯夫
関西地区 8/4（月）京都高雄，世話人：坂東誠，高萩敏和【地衣学会大会関連】

（山本好和：庶務幹事）

青空地衣教室のご紹介

地衣類の普及活動として地域の特色をいかした活動を展開しよう，ということでようやく観察会の開催にこぎつけることができました。青空地衣教室です。ニュースレター13号で紹介しましたが，2003年2月2日雪の舞う箱根で開催されました。

ここで，青空地衣教室についてご紹介いたしましょう。幹事をされている山本好和さん主宰の「地衣類観察会（旧称：関西地衣類観察会）」がその実績，動員力で有名ですが，学会主催の観察会を開催しようとするとき名前が紛らわしい，という問題に直面しました。呼びかけている私たちがさき今日は「地衣類観察会」こんどは「学

会主催の観察会」と混乱します。その上，関東地方では千葉県立中央博物館主催の地衣類観察会が年2～3回開かれており，これは通称「県博観察会」。これはもう，誰にでも違いのわかる名称をつけなければ解決いたしません。

私も結構悩んだのですが名案は出ませんでした。そこで山本好和さんから提案されたのが「青空地衣教室」あるいは「地衣青空教室」という名です。明け方の嵐も観察会開催時には快晴に変えてしまうという，数々の伝説を残した最強の晴れ男山本さんらしい発案だと思いました。こうして，「青空地衣教室」がスタートしたので

す。

青空地衣教室は、地域活性化委員会が主体となって、関東から第1回をスタートしました。第2回は5月に東北・田沢湖で、第3回は6月にやはり箱根、第4回は8月に近畿・京都高雄、第5回は9月に北海道・支笏湖で開催される予定です。全国どこでも開いてゆきましょう。青空地衣教室は野外観察会だけでなく、室内の講習会でもかまわないと考えています。皆さんの提案と参加をお願いします。関東では、千葉県博の観察会が千葉県内に限られるため、千葉県とは異なった環境で開催してゆきたいと考えています。

「地衣類観察会」、「青空地衣教室」となると、もうひとつ看板のほしい観察会がありますね。そう、宿泊を

伴い、バーベキューやお酒も付く観察会です。昨年入笠山で開かれ、今年は秋田県森吉山妖精の森(8.30-31)で開催される観察会には、まだ名前がないのです。

こちらは主に学会会員対象の観察会ですから、それらしい名称がいいですね。妖精の森で考えていただきましょう。

ところで、第1回の記念すべき青空地衣教室が激しい雪に見舞われたのは、青空男の山本さんが欠席されたからだ、恨めしく思っている私です。

それでは、青空地衣教室をお引き立ていただきますよう、宜しく願います。

(安斉唯夫:地域活性化委員長)

会員通信 From Members

森をみて地球を考える

- カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記 -

2003年4月から、現在の職場である玉川大学農学部を一時休職し、1年間の海外研修に出かける機会を得ることとなった。研修先は、森林科学や生態学分野での権威であるプリティッシュ・コロンビア大学(以下、UBC)である。3年ほど前から本学理学部の Gary E. Bradfield 博士の協力を得て、カナダ西海岸の森林生態系における動態学的研究を展開してきた。UBC が位置するカナダ西海岸はその地形的および気候的条件に恵まれていることから、非常に広大な面積の森林帯が広がっている。また、意外に思われるかもしれないが、アリゾナなどの砂漠に分布するようなサボテンの最北限地も存在する。すなわち、森林帯から砂漠までさまざまな生態系が広がり、非常に自然度の高い地域が手つかずの状態に維持されてきている地域といえる。

そんな立地的条件を活かし、地形および気候などの自然諸要素と植生との関係を、主に森林生態系内で研究することが今回の研修の主目的である。健全な森林の維持機構には多様な生物要素が関与している。本研修では、特にその基盤を支える生物群として林床に生育する地

衣類や蘚苔類に着目する。林床植物種の組み合わせや量的な差異が、林冠構成種の実生動態にどのような影響を与えるかは非常に興味深い点である。地衣類や蘚苔類がもつ森林生態系における役割は、まだまだ未知な点が多く残されており、それらを解明することは森林の健全性をはかる良い指標となる。この研究を進めるには、自然度の高い地域が広く残されているカナダ西海岸が大変有効であると考えている。また、太平洋をはさんで両岸にある日本とカナダ西海岸の森林生態系を比較することも、おもしろいテーマであると思う。

日本地衣学会編集委員長のご厚意により、この海外研修の報告を数回にわたって掲載する機会を得た。カナダ西海岸における地衣類や森林生態系の研究についての情報にとどまらず、研究や大学教育事情、環境問題に対する意識や取り組み、生活面などにいたる、学会員に有益であろうと思われるさまざまな情報をお知らせしたいと考えている。是非、ご期待頂きたい。

(南 佳典:玉川大学農学部)

地衣成分というと、地衣類研究者の間ではいわずと知れた存在である。しかし、こと一般の方々となると事情は違う。ほとんどの方は知らない。それだけに難解な展示は不向きである。

例えばウメノキゴケから地衣成分(レカノール酸とアトラノリン)を抽出し、スライドガラス上で再び結晶を作らせることは比較的簡単だ(図1)。この方法は顕微結晶法と呼ばれる。そのようにしてできた結晶の顕微鏡写真は意外と人目を引くようだ。90x60cmの写真が生きてくる。

このような展示物とともに、成分研究の手法、道具も簡単に紹介した。薄層クロマトグラフィー(TLC)と高速液体クロマトグラフィー(HPLC)である。後者は明治薬科大学の成井さんと梶山さんのご好意により借りることができた。このような機器を展示すると、何だか解らないが、すごいことをやっているのではないかという印象を一部の観覧者は持つようだ。

(原田浩：千葉県立中央博物館)



図1. ウメノキゴケと地衣成分の結晶。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

原稿募集

ニュースレターは原稿が集まり次第、随時発行します。一般会員からの声を掲載したいと思いますので、ふるってご投稿ください。質問や、こんな記事を掲載して欲しいなどのご要望も承ります。投稿原稿はなるべく電子メールの添付ファイルでお願いします。文章はMS Word 表はExcel、写真はjpg形式にしていただけるとありがたいです。

日本地衣学会誌*Lichenology*2巻1号の表紙写真を募集しています。テーマはウメノキゴケです。生育環境がわかり、かつ、ウメノキゴケであることが写真から判別できるものが適当です。表紙に掲載される状態は正方形となりますので、通常の写真ではトリミングが必要となります。トリミングした状態でも、していない状態でも投

稿は受け付けます。ポジフィルム、ネガフィルム、プリント、デジタルデータのいずれでも投稿できますが、画質が悪いと採用の対象とならないこともありますので、ご注意ください。なおデジタルデータの場合には、画質の劣化の少ない形式で保存されたデータをお送りください。TIFF形式が良いと思います。なお、投稿に当たっては、編集委員会からなるべく返送しなくても良いようにご配慮ください。締め切りは4月末日です。

Lichenology 日本地衣学会ニュースレターとも、
投稿先は：

原田 浩。〒260-8682千葉県中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館。Fax 043-266-2481。
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩：編集委員長)

日本地衣学会ニュースレター 14号

発行日：2003年3月31日

編集： 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内
